

やってみよう! パラスポーツ特集!

オリンピックにはなく、パラリンピックだけで開催される
パラスポーツ(障がい者スポーツ)を紹介します!

ボッチャ

- 目標のジャックボール(白)に、自分のボールを投げたり、転がしたりして、どれだけ近づけるかを競う
- 赤・青のボールを6球ずつ投げる(個人・ペア・団体により投球数はさまざま)



ゴールボール

- 1チーム3人構成
- 鈴の入った1つのボールを相手を守るゴールに投げ合い、得点を競う
- 全員が「アイシェード」と呼ばれる目隠しを着用
- ボールの音や相手側の足音・気配を頼りにプレイするため、静寂の中で試合が行われる



2021年度 上期行事

6月6日(日)
■ 戸塚区青少年指導員全体研修(戸塚区役所)
青少年指導員を対象に、オンライン会議についての研修

7月初旬 中止
■ 青少年の健全育成を進める県民大会

7月24日(土)
■ 全市一斉統一行動パトロール
青少年指導員が繁華街、公園などを中心に巡回夜間パトロールを実施

7月~8月 神奈川県が実施
■ 社会環境実態調査(インターネットカフェ・まんが喫茶、古書店、ゲームソフト取扱店などの店舗調査)
有害図書区分陳列、18歳未満深夜入場制限規制表示、喫煙飲酒状況等を確認し、青少年保護育成条例の遵守状況を調査、報告

9月12日(日) 中止
■ 横浜市青少年指導員研修会



2021年度 下期行事(予定)

10月2日(土) 中止
■ 第29回戸塚っ子いきいきアートフェスティバル(戸塚公会堂)
区内小中高生による合唱・吹奏楽・ダンスなどの合同発表会

11月3日(水・祝) 中止
■ 第45回戸塚ふれあい区民まつりで活動アピール
工作教室や模擬店を出店

11月20日(土)
■ 神奈川県青少年指導員大会(県立青少年センター)

11月21日(日)
■ 青少年防災対応力強化研修(横浜市消防訓練センター)
防災対応力強化を目的に、心肺蘇生等を実習

12月12日(日)~12月17日(金)
■ 12/12 児童文化作品展~子どもたちが作った作品を紹介展示~
(戸塚区総合庁舎3階 多目的スペース大)
■ 12/13~17 児童文化作品展及び青少年指導員活動紹介パネル展
(戸塚区総合庁舎3階 区民広間・アートコリドー)

1月15日(土)~1月16日(日)
■ 第15回戸塚っ子いきいきアートフェスティバル作品展
(戸塚区総合庁舎3階 多目的スペース他)

3月13日(日)
■ 横浜市青少年指導員大会(関内ホール)

新型コロナウイルス感染症の影響により、実施内容については変更する場合があります。



とつか

集まれ! 戸塚区青少年指導員(青指) だよ!

さくらっこ!

戸塚区青少年指導員協議会 戸塚区青指 検索



横浜市青指のシンボルマーク

第70号

2021年
9月22日



目次 P.1...みんなと同じじゃなきゃいけないの? / P.2・3...「コロナ」で変わったこと 得たこと (緊急アンケート) / P.4...やってみよう! パラスポーツ特集! / 活動紹介・2021年度 上期行事・2021年度 下期行事(予定)

No.22 子育てワンポイント!

みんなと同じ じゃなきゃいけないの? *

「多様性」という言葉が広く使われるようになりました。お互いの価値観や考え方を含み、それぞれ個人の違いを認めて、お互いを尊重する姿勢や心構えです。人それぞれ違っていてもいい、人それぞれ違って当たり前なのですから。

しかし、皆と一緒に協力して何かをやろうとしている時に「嫌だ」と言われると「わがままを言わないの」と叱りたくありませんか? 学校に行きたくないと言われると「みんな行っているんだから、行くのが当たり前」と言いたくありませんか? 「人と同じにしないとダメ」と「人と違ってても良い」の区別はどこでつければ良いのでしょうか。

「個性(個の音色)」と「集団の調和(ハーモニー)」の観点から考えてみましょう。

例えば、木管楽器のクラリネットと金管楽器のトランペットには音色に違いがあります。同じ音階を鳴らしても音色が違います。クラリネットだけで奏でる「同じ音色」の楽曲よりも、クラリネットとトランペットの合奏による「異なる音色のハーモニーが心地よい」と感じたら、それはクラリネットとトランペットの音色の違いを知った上で、その音色の特色を生かせる楽曲が選ばれたからでしょう。

管楽器と弦楽器、さらには打楽器。それぞれの音色などの違いを認めた上で、それぞれの特色を生かせる楽曲を選んだり、新たに作曲したりすることで、それぞれ個の楽器

だけで演奏するよりも壮大で美しい音楽が奏でられます。つまり、集団の方向性を決めるために、まずは「個性」を尊重し、方向性が決まれば「集団の調和」を尊重する。「一緒に協力して何かをする」、その何かを決めるまでに、反対意見はないか、違う考え方はないかと十分な話し合いが必要です。「学校に行きたくない」というその理由を、自分の価値観をいったん脇に置いて、まずは聴くことが大切です。

注意が必要なのは、「暗黙のルール」に慣れてしまっている人たちが多いことです。周りの意見に自分の考えや行動を合わせるが良いことだと、つい思いがちです。本当は納得してなくても、仲間外れになることを恐れて、つい周りに合わせてしまう。これは「調和」ではなく「同調」です。つまり「集団との同調」が重要視され過ぎて「個性」の尊重がないがしろにされてしまっているのです。しかもそれが当たり前と思っている大人たちが多いことに、私たち自身が気付かなければなりません。クラリネットの子どもに向かってトランペットのように吹きなさいと強要してはいませんか? もうそういう時代は終わったのです。

「当たり前」「普通」「当然」と思うことを「それはなぜ?」と、もう一度考えてみましょう。安易に「同調」することで、本当の「調和」を得る努力を怠ってはなりません。そのためには、自分と異なる考え方や意見にこそ耳を傾けましょう。自分と違う言動に注目してみましょう。認めることは賛成でなくてもいいのです。お互いの違いが分かるからこそ「調和」に近づくことができます。




一人ひとりの異なった人たちが、一つの同じ目標に向かってそれぞれが生き生きと努力する。美しい集団のハーモニーが聴こえる。そんな社会の中で子どもたちの成長を見守っていききたいですね。



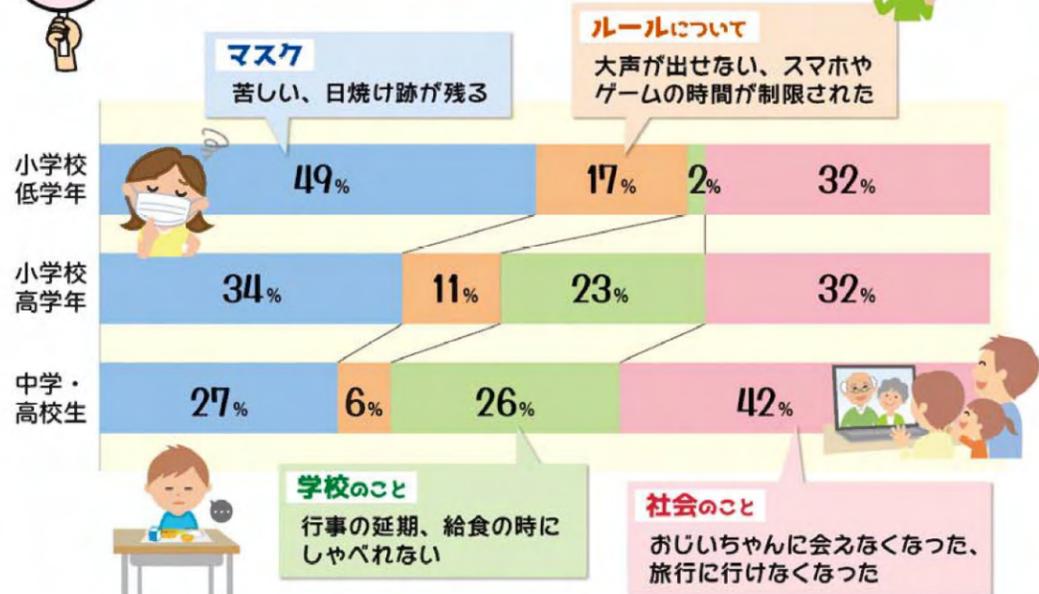
子どもたちへの 緊急アンケート!

“コロナ”で変わったこと 得たこと

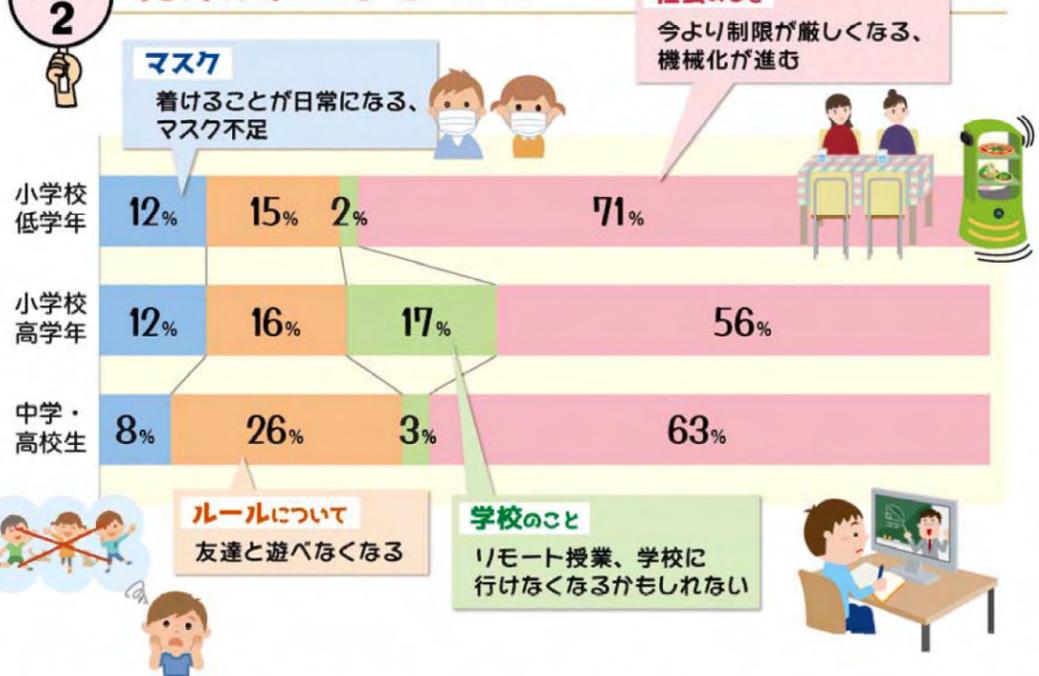


新型コロナウイルス感染症についてどんなことを感じているか区内に住む児童・生徒422名からの意見です。

質問1 今気になること



質問2 将来気になること



児童・生徒・学校関係者の皆さん、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

子どもたちが感じていることに対して、どのように向き合っていく必要があるのでしょうか。アンケート回答の中から特徴的な意見を取り上げて、コメントしました。

1 変わったこと

ヒマな時間が増えた

「ヒマな時間」を何もやることのない時間ではなく、自分が自由に使える時間と考えてみてはどうでしょうか。家庭菜園を始めた、片づけをして断捨離した、など自分の時間が増えたことを活用した話はよく耳にします。今までできなかったことにチャレンジする絶好の機会としてヒマな時間を有効に活用すれば、より前向きに過ごすことができるのではないのでしょうか。



家族といる時間が増えた

あなたは、子どもたちと、どのような時間をお過ごしですか？ゲームをしたり、本を読んだり、公園で遊んだりしているのでしょうか。子どもたちは大人以上に、コロナ禍に対して、不安を抱いているようです。しかし、今まで人類は、さまざまな災害やパンデミックに遭遇し、それを乗り越えて生き抜いてきました。古くはヨーロッパで、ペストを乗り越えて、ルネサンスという素晴らしい文化ができたように、“コロナ”が収束したら、今までとは大きく違った世界が待っているのではないかと思います。子どもだけでなく大人も苦しい時代ですが、乗り越えた先の新しい未来について、子どもたちと話し合ってみるのも素敵なおことなのではないか思います。

命について考えた

身近な人や知っている人の「死」を感じ考える一年だったと思います。ある論文で「体験し得ない誕生と死」とありました。確かに、私たちは概念や感覚で「誕生」や「死」を知っていますが、体験として知ることはありません。これを機に家族や身近な人と生きること、命について語ることも大切な心の成長や整理につながるのではないのでしょうか。

子どもたちへ

この一年は、楽しいことややりたいことができなくて、生きていることってなんなの？と、疑問に思うことも多かったでしょう。でもね、生きているって素晴らしいんです。昨日まで食べたことがなかった美味しいものを食べたり、見たことがなかった素晴らしい景色に会ったり、そんなキラキラとした未来があなたには必ずあります。今がつまらないと嘆くのではなく、少し先のことを考えると、ワクワクしてきませんか？



2 さらに1年続いたら

新規事業が立ち上がる

コロナ禍をきっかけに生き方・時間の使い方・消費スタイルなど、あらゆる面でライフスタイル全般が変化しました。企業では、革新的な方向転換をし、新たな市場へと繰り出したケースも少なくありません。旅客機が貨物便を、スーパーが配達施設を、ホテルが在宅者勤務向けに日中利用料金での部屋提供をそれぞれ始めています。リモートワークの増加にともない、今後も仕事以外の時間が増加し、ライフスタイルの変化はますます加速すると考えられています。外出の自粛、営業の自粛要請により、苦境の中でも密を避けながら新たなカタチで時間を過ごすことができるキャンプカーのヒットは、その例であると言えます。



3 さらに5年続いたら

初対面の人と顔合わせできない

世界では目以外の顔や髪、首をスカーフなどで覆う生活スタイルもあります。今は私たちがマスク越しで分かり合えば良いのではないのでしょうか？目は口ほどに物を言うと言いますし、マスクを外して素顔に会える日を楽しみに。

人間だけでなく、動物にも影響が広がる

2021年現在、人からペットへの感染が数例確認されています。家畜への感染は今のところ確認されていません。コロナ禍でペットブームが起きているのが相次ぐといった間接的影響が出ていますが、明るい面としては、今現在も数多くの動物動画等が投稿されているように、人と動物の距離感は今まで以上に近づいているのかもしれない。



ウイルスが日常的になり、慣れる (インフルエンザのようになる)

5年後にはワクチンの接種が進み、感染者数は減少するでしょう。インフルエンザや風邪のような、身近な病気になっていると思われます。今の生活様式についても、日常的になっているかもしれません。

何でもリモート(ネットやeスポーツ)

リモートと名のつく言葉が爆発的に増えました。リモート会議・授業・飲み会・旅行等……。数年前には考えられなかった言葉です。リモートが普及したことで、遠方にいる家族や友達などと、顔を見ながら話すことが気軽にできるようになりました。コロナ禍で、ちょっとだけプラスに作用したこともありません。でも、お互いに気兼ねなく対面で会えるような日が早く来て欲しいと思います。